

そのうえ、最近欧州における絹の需要が再び増大したため、中共生糸は欧州に輸出されるきざしが見えはじめました。

しかし蚕糸界が活況を呈してきたのは、何と云つても国内消費の伸びであります。最近高級織物の売れ行きが極めて好調なため織物業界は最近になく活況を呈しております。反面繭の生産は全国的に伸びやんでいること等が原因で糸価は次第に上昇しております。この現象は昨年とは全く異つたもので、当分は昨年より高い水準で上下するものと予測されます。

た。

ちり焼場が操業開始

収集にご協力を

地区別 日割りなど決まる

工事がおくれで迷惑をおかけしてまいりました。ちり焼場(葛原の焼山に建設)が、いよいよ七月三日から操業をはじめました。一日処理能力六トンの焼却炉のほか、プレス機、ガラス粉砕機等を有する近代的な施設ではありますが、何となくとも町民の皆さんの協力をいただかない限り円滑な運営はできません。そこで役場ではお知らせと合わせて、次のように皆さんの協力を呼びかけております。(住民課)

①ごみは紙袋で収集します。ポリバケツ等からはいっさいを三地区に分けて週二回収集します。②難芥とちり芥(台所ゴミ)を同時(混合)収集します。③国、県、市、町、集落、ごみ袋(混合)のゴミを同時(混合)収集します。④危険物の収集は次の要集します。⑤ごみ容器は紙ステーション方式を採用し、領行ないます。(曜日袋を使用します。ごみ箱、



操業を始めたちり焼場

不燃物の収集

ごみ袋(混合) 収集日 木、火、水、土のいずれかに。木、火、水、土のいずれかに。二ヶ月に一回とし、二ヶ月目の第四曜日に町内一円を集めて廻る。

婦人会だより

●東庭谷婦人会

●生活改善グループ

●杉部落婦人会

四月二十五日の夜、婦人の現状はこれよりよいのうかと会長白石千代子さん、青年団の今井君の呼びかけで公民館に集まり、町の社会教育担当者、校下の会長らと話し、話を聞き、やる気十分のかまえ、



校と連けいして勉強をはじめた。(写真は山菜料理にけむり天祥庵にて)

用した理由と利点

①衛生的な収集作業ができる。②能率的で経済的。③町民の皆さんの理解と協力が得られやすい。④町の発展を促す。⑤袋ごと車に積み込むので清潔で衛生的な作業ができる。⑥容器の持ち帰り、洗う手間が省ける。⑦其の後の世帯や留守にする家庭でも収集日の朝に出しておくだけで済む。⑧運搬途中でごみが飛散したり、汁がはれたり悪臭を放つことがない。



国際的視野が必ず要求されるようになってくるからで、第三回アジア地域ユネスコ活動調査団の一員として、実際に東南アジアを訪問し、勝田路子さんは次のように話してくれました。

東南アジア諸国は、日本と比べて生活程度も教育程度も大分低い。けれども向学意欲はまことに旺盛、机や椅子もなく設備はないものの、教育は設備するものではなく心でやるもの、だから予算がないから教育ができないというべきではないと。とひたすら教育に命をかけているという人々の人々。文盲率80%と云われるインドでは学校教育と同時に日本と同じ位社会教育に力を入れていて、入学級活動も盛ん。お花や料理等プログラムの中に必ず社会科があり、私達と全く同じくそれ以上のことをインドの婦人達が、生懸命やっている。だから日本の教育が百年も進んでいると思うのは大きな誤り。

特に教育関係は女性が多。家庭管理においても国際的視野に立つた考え方や行動が主婦にも要求されるようになり、夫の仕事に対する理解も、若い世代との断層をうめるにも、国際的規範を並べてやろうとしていく必要がでてくる。三度の食事もよくよく、子供を育てる中で国造りに一生懸命になっている東南アジアの人々のことを考えると、これはこれからの世界にはききく赤面のいたりであった。

長崎に学ぶ

大 利 愛

(2)

(1) 地域環境

長崎市の北部で原爆の洗

文部省委託学校 五

市教育委員会委託学校 三十三

その他の学校 百四十余

以上の学校のうち「うみ」

「こども」の学習の実態

を学ぶ。

ユネスコ委託学校の種類

長崎市の婦人学校の種類

ユネスコ委託学校



長崎市役所での研修 (右から二人目が筆者)

強い勉強をしたこと、我が夢で取り組み、お互いの主眼ばかりで、最初はに助けあふし合いながら各種の文庫、図書館、その道に手をつけていかに無

の確信が自分達の考え、く限りをつくして、発表にこぎつけるまでの各人の苦の。互いに学習した結果は適当な機会に発表し合い、討議を重ね、より理解を深め、合っている。この内容のまとは、市内婦人学校指導者研修会シリーズ「学習の教育が百年も進んでいる」というのは大きな誤り。特に教育関係は女性が多。家庭管理においても国際的視野に立つた考え方や行動が主婦にも要求されるようになり、夫の仕事に対する理解も、若い世代との断層をうめるにも、国際的規範を並べてやろうとしていく必要がでてくる。三度の食事もよくよく、子供を育てる中で国造りに一生懸命になっている東南アジアの人々のことを考えると、これはこれからの世界にはききく赤面のいたりであった。

(次回はいまだ婦人学校の紹介)

